



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア・トルコ：シリア軍によるトルコ軍機撃墜

主席研究員 中島 勇

6月22日、シリアのラタキア沖で、トルコ空軍の偵察機（F4）が、シリア軍によって撃墜された。シリア側は、午前11時40分ごろ、同機が西方から高速のまま低空飛行でシリア領海上空に侵入したため、陸地から約1キロの地点で対空砲によって撃墜したとし、領空侵犯していたのがトルコ軍機だとは知らなかったとした。トルコ側は、同機がシリア領空を一時侵犯したことは認めていた。その後の24日、トルコ側は、レーダーの解析などの結果として、トルコ軍機が撃墜されたのはシリアから13カイリ（約24キロ）沖であり、シリア領海は12カイリまでであるので、公海上で撃墜されたことになったとした。また25日の米ワシントン・ポスト紙は、トルコ軍筋の話として、シリア側はトルコ軍機とわかっていて地对空ミサイル2発を発射したと報道している。

6月24日、米国のクリントン国務長官は、シリアが警告なしでトルコ軍機を撃墜したことを非難した。トルコは24日、NATO加盟国の安全保障などが脅かされた場合に加盟国全体で協議することを定めた北大西洋条約4条に基づく会議を開くようNATOに要請し、NATOは26日に緊急理事会（大使級）を開くことを決めた。

トルコは、シリア国内での反体制活動が活発化した2011年の春以降、シリア政府に対する非難を強めている。トルコはシリアの反体制への間接支援をしており、シリア国民評議会、イスタンブールで創設され、その後もイスタンブールで頻繁に会合を開催している。またシリア北西部の住民が、隣接するトルコのアンタキアやイスケンデルンに多数避難している。2012年6月時点で、その数は3万人近くになっている。同地域は、1939年にトルコに編入されたが、元々はシリア領で、住民はアラビア語を話していた地域である。シリアからの避難民にとって、トルコ国籍を持つがアラビア語を話す住民が住む同地域は、トルコの他の地域と比べて親近感があり、逃げやすいだろう。6月21日のNYT紙は、トルコ南部地域で、CIAの小さなチームが活動しており、シリア国内のどの反体制勢力に武器を供与するかを調整していると報道していた。

今回のトルコ軍機撃墜事件が、シリア内紛に直接関係がないとしても、撃墜された地域は、元々トルコとシリア間で領土問題になっていた地域の近くであり、かつ2011年春以降は、多数のシリア難民が流れこんでいる地域にも近いことは確かである。さらに最近では、東地

中海地域諸国の沖合にあるとされる海底の石油・ガス資源をめぐり、レバノン、イスラエル、シリア、キプロス、トルコなど地域諸国間で公海での航行の自由問題や領海線確定が政治問題化しつつある。2012年5月14日には、北キプロスで石油・ガス探査が行われた地域の空域を、イスラエル軍機が数回侵犯したとトルコが非難している。こうした複数の事情もありシリア軍が、ラタキア沖で領空を侵犯した飛行機に敏感に反応しても不思議はないだろう。一方、26日に会合を開催するNATOが、今回の撃墜事件をシリアに対する圧力強化の一環として利用する可能性もゼロではない。